

2024年度事業計画

1. 全 般(基本方針)

[会員の経営課題への支援と協会の将来像に向けた取組み]

- ・ 受益者負担を引き続き明確にし、各部会、委員会の活動内容の充実化をはかる。
- ・ 業界情報と会員情報の収集、整理、活用をはかる。
- ・ GX など潮流に沿った業界支援を行える体制を構築し、会員の経済的利得と発展を促す。
- ・ デジタル化に経営資源を投入し、活動の発展的支援と業務の効率化を進める。
- ・ 取手固定資産の売却を進める。
- ・ 輪番制を再構築し、次世代に繋がる安定的な組織基盤を築く。
- ・ 人材が不足する中、会員様の協力を得て、継続的な活動が出来るように組織づくりをする。

2. 各部会における事業

会費使途の透明化の為、受益者負担を原則とした部会毎(表面処理部会、家庭日用品部会、はしご脚立部会、共通)の特別会計を導入し、組織を再編している。

1) 共通

理事会を年4回、業務委員会を年 5 回開催する。業務委員会において、わずかに残された再編課題の解決を企画する。将来に向けた発展的な協会活動をいかに企画するかを検討の中心に据え、理事会に提言を行っていく。

テーマ	2024										2025		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
総会		○											
理事会	○			○			○			○			
業務委員会	○			○			○			○		○	
日工協 定時総会・運営委員会		○			○				○		○		
軽金属4団体賀詞交歓会準備委員会							○			○			
アルミ製品需要調査会											○		
官公庁との折衝業務	—											▶	
他団体との折衝業務	—											▶	

2) 表面処理部会

長らく休眠状態であったが、利害関係者と意見交換を行い、活動再開を目指す。

① 建材表面処理規格委員会

建材表面処理規格委員会及び技術研究 WG の活動は以下のテーマを重点に進める。

- ・ 1997 年開始「ビル建材表面処理仕様の長期暴露試験」25 年(最終年) 報告書発行(本委員会)
- ・ 2012 年開始 世界 7 か国屋外暴露試験の 10 年経過の評価まとめ(WG)
- ・ JIS H 8601、JIS H 8602 改正に向けた取組み(本委員会審議・規格調整等対応)

・協会発行資料のレビューと内容の見直し

テーマ	2024										2025		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1997 年開始長期暴露試験報告書										発行			
2012 年開始世界 7 ヶ国暴露(WG) ①個別評価報告書 ・AAMA/QUALICOAT、協会規格評価 ・促進試験と暴露との相関、粉体追加暴露、取手暴露 報告書 ②10 年屋外暴露試験結果報告書													
JIS H 8601、8602 改正対応													
協会発行資料のレビューと見直し													
アルミ建材表面処理仕様別調査													
委員会開催 規格委員会 表面処理技術研究 WG				○					○				○

②表面処理工場環境委員会

昨年に引き続き、新しい JIS Z 7253 (2019 年版) に対応した SDS (安全データシート) の書式改定作業への取り組みを実施する。

テーマ	2024										2025		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
SDS 9 品目の見直し													
委員会開催				○					○				○

③標準化事業

・ISO/TC 79/SC 2 標準化 (ISO 国内対応委員会)

本年度は経済産業省の補助金を受けて実施する。なお、陽極酸化皮膜品質特性評価委員会での実験は予定しない。

〈ISO 国内対応委員会〉

1. 定期見直し

以下の8規格について、改正の必要性を検討して投票する。また国際幹事として投票結果をまとめて報告する。

- ・ISO 2085:2018 連続性試験方法—硫酸銅溶液接触方法
- ・ISO 3211:2018 変形による耐ひび割れ性試験方法
- ・ISO 6581:2018 促進耐光性試験方法—紫外光堅ろう度試験
- ・ISO 7583:2013 用語集
- ・ISO 8251:2018 往復運動平面摩耗試験／噴射摩耗試験／砂落し摩耗試験
- ・ISO 8993:2018 孔食評価方法—レイティングナンバ方法
- ・ISO 8994:2018 孔食評価方法—グリッド法

・ISO 28340:2013 陽極酸化塗装複合皮膜

2. 作業項目

以下3規格の改訂プロジェクトについて、国内の意見を取りまとめて投票・会議の検討に反映させる。

- ・ISO 2135(光堅ろう度試験)PL:須賀委員
- ・ISO 10216(写像性試験方法:機器測定方法)PL:須賀委員
- ・ISO 3210(封孔度試験方法:酸水溶液浸漬試験)PL:Dr. Fontinha(ポルトガル)

<国際会議の開催運営>

国際幹事、議長、WGコンビーナとして本年 10 月に開催予定の国際会議に向けて開催の準備、当日の議事運営を行う。

テーマ	2024										2025		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
委員会開催													
国内対応委員会			○		○				○				
国際会議準備委員会						○							
国際会議							○						

◇JIS H 8601 並びに H 8602 改正原案作成分科会

・JIS では JIS H 8601 と JIS H 8602(陽極酸化塗装複合皮膜)について、昨年度に引き続き現状に合わせた改正を行っていく。

テーマ	2024										2025		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
委員会開催													
本委員会			○			○				規格協会提出			
分科会		○			○								
規格協会・専門委員会対応												▶	

3) 家庭日用品部会(アルミ調理器具品質委員会と同日開催)

- ・有機ふっ素化合物 PFAS の報道を契機とした風評被害について、外部団体との連携も視野に入れ、引き続き注視して対策を検討する。
- ・JIS S 2010(アルミニウム製加熱調理器具)について出力 3kW を取り入れた SG 基準との整合に向け JIS 素案を準備する。
- ・アルミと健康連絡協議会は、日本アルミ協会・アルミ缶リサイクル協会・当協会の3団体による任意団体であり、(株)UACJ、(株)神戸製鋼所、日本軽金属(株)、東洋アルミ(株)、(株)UACJ 製箔、アルテミラ(株)をメンバーとした連絡協議会である。アルミニウムに係わる健康上の問題についての国内モニタリング(風評被害)と対策及び IAI 等国際的な機関との意見交換を行う団体である。アルミに関する風評被害が、過去、1業界を衰退に追い込んだ事実を重く捉え、今後もアルミの健康に関する懸念点を、この連絡協議会を通して対応する。

テーマ	2024										2025		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
特定PFAS風評被害対策										→			
JIS S 2010 改正検討													→
部会・委員会開催				○		○		○				○	
アルミと健康連絡協議会								○					

※家庭日用品部会とアルミ調理器具品質委員会は同日開催

4) はしご脚立部会

部会において、年度の活動レビュー及び次年度予算を審議する。

① はしご脚立技術委員会

本年度の活動は、以下のテーマを重点に進める。

- ・JIS S 1121 (アルミニウム合金製脚立及びはしご) 改正専門委員会への対応を行う。
- ・厚生労働省と「墜落防止のための安全設備の作業標準マニュアル」改正への対応を行う。
- ・中央労働災害防止協会と同協会の発行図書のはしご・脚立の誤った使い方の記載に関して、改訂の申入れ及び修正確認を行う。
- ・作業台 A マーク基準作成及び取扱説明書、ラベルの作成を行う。

テーマ	2024										2025		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
はしご脚立部会													○
JIS S 1121 改正専門委員会への対応										→			
厚労省作業標準マニュアル改正への協議													→
中央労働災害防止協会と修正申入れ確認									→				
作業台 A マーク基準作成及び取扱説明書、ラベルの作成													→
委員会開催	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

[その他]

- ・ HP に会員専用ページを新設する。内容については、新たに広報委員会を立ち上げ、そこで審議する組織づくりを行う。